

## 5.1 環境改善目標(1) 省エネルギー化(ガソリン部門)

目標 ガソリン消費量の前年比3%削減

### 具体的方策

- 1 単独での車両利用の低減
- 2 単独での場合、公共交通機関の利用促進
- 3 走行距離あたりの運行人員の把握

スケジュールを合わせて、  
一緒に出張しましょう!



### 活動において、目標達成の為に努力工夫したこと

- 車一台に対して管理担当者を設定し車の走行距離等及び乗車人数をチェック
- 単独での車両利用の低減・走行距離単位の人員の把握  
(9/20 会議にて同乗率が上がってきているとの報告あり、1.4人)
- 公共交通機関の利用促進(バス・JR等の活用)
- 燃費改善装置の導入を検討
- 車両整備による燃費向上の推進
- 会社で使用している車両を減らすことを検討。(リース満了時に合わせて検討)

### 実績

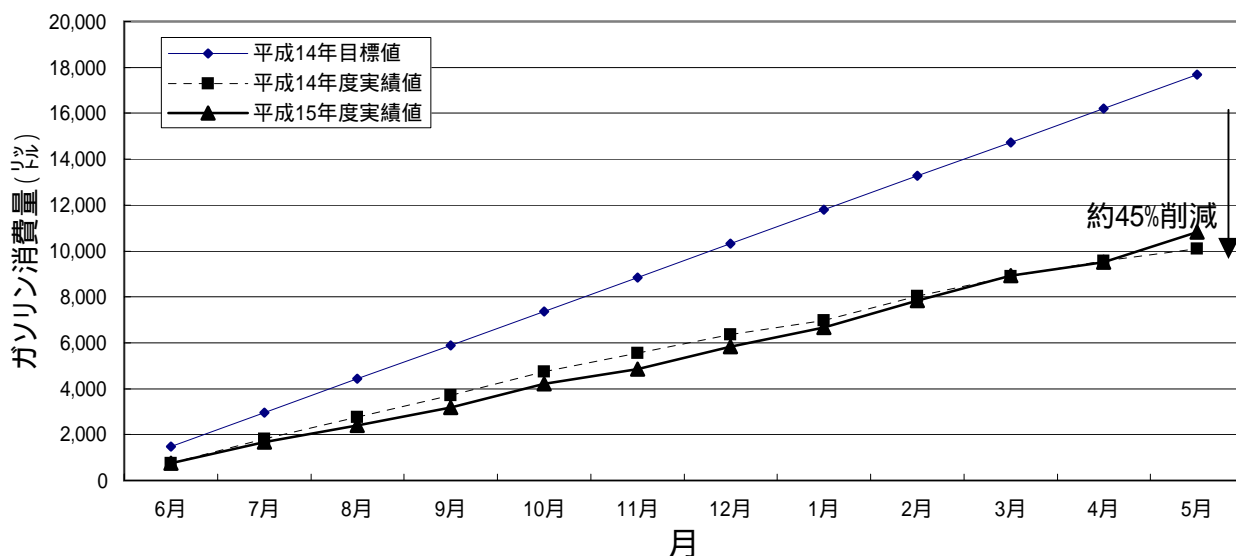
上記の工夫を行い、実行した結果を図5.1に示します。

KES取組み前の平成14年度目標に対して、平成14年度は約45%の削減率を達成できました。しかし、平成15年度は、削減目標である前年比3%削減を達成することができませんでした。

この要因は、業務の増加(売上高前年比1.25倍)を見込んだ目標設定としていなかったためであると考えられます。

次年度では、業務量の増加を見込んだ目標設定とするなどの工夫が必要と考えています。

図5.1 省エネルギー(ガソリン);累積値



## 実行責任者として取り組んでみた感想

- いろいろな案をだして努力したことが結果としてしっかりと見えている。
- 目標を掲げていることで、努力し達成が出来る。
- 車一台に対し一人の管理担当者を付けて車両を管理したことが効果的だった。
- 効果が目に見えやすく、環境に取り組む意識が強くなるのを感じた。

## 社員の姿勢の変化について

- やはり環境に対する意識が強くなっていることが同乗率のUPに繋がっている。  
->スケジュールを調整して、同時期に出張するようになった。

## 今後取り組んでいきたいこと

- 引き続き、燃費向上の方法を考えて工夫したい。  
ハイブリッドカーの導入など！！



### <燃費向上策>

1. タイヤの空気圧は適正に保つ。
2. 経済速度を心がけ、急発進、急加速をしない。
3. 無駄な荷物を積んだまま運転しない。